

第二章活用事例

「ふるさとを 歌に」

— 中村 雨紅のものがたり —

小学校一・二年生版

「心あかるく」 p.58
～
p.63

【主題名】 自分のまちのよさについて

第一学年及び第二学年 4・5

「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。」

【ねらい】 郷土の文化や生活に親しみ、郷土を愛し大切にしているよさを心情を育む。

《ねらいとする道徳的価値について》一・二年生の時期の児童は、生活科や遊びを通して身近な郷土に目を向けています。自分が育った郷土は、一生に渡って大きな精神的支えとなります。郷土への積極的な関わりを通して郷土愛を深め、郷土をよりよくしていくこととする態度を育みましょう。その際、郷土の自然や文化、人々とのふれあいのよさに気付くことができようように指導していくことが大切です。



『ゆうやけ こやけ』の歌を知っていますか。

導入

○中村雨紅の写真を見せ「ゆうやけこやけ」の歌を聴かせましょう。この歌詞は、雨紅が自分の生まれ育った大好きな故郷を思い浮かべながら作られたことを紹介して、資料への興味をもたせましょう。

○教師が「ふるさとを 歌に」を読み聞かせましょう。



「(いよいよ、夏休みだ)と心の中で言った時、雨紅は、どのようないことを思い出していたのでしょうか。」

○故郷から遠く離れた学校で勉強をしていた雨紅が、自分の村へ帰るのを楽しみに待ちわびていた気持ちを抑えさせましょう。

中心発問



「ああ、ほくの村はいいなあ。」と心の中で言った時、雨紅は、どのようないことを思い出していたのでしょうか。」

展開

○雨紅が、故郷の自然をこよなく愛していることや、子供の頃の遊びや行事などを通して人と楽しく関わった思い出が、故郷を大好きに思う気持ちとつながっていることに気付かせましょう。



《評価》 故郷が大好きな雨紅の気持ちに共感し、故郷を大切にしていきたいという心情をもつことができたか。



「自分が住んでいるところ、『いいなあ』『好きだなあ』と思うのは、どのようないことですか。」

○「心あかるく」p.112～p.113 ⑩ 町の『すてき』を見つけよう」に記入させ、発表させよう。

○発表を学級内で共感的に捉えさせると共に、自然や行事、人との関わりについて、そのよさを整理してそれぞれの大切さに気付かせよう。

○教師が自身のふるさとについて、そのよさを子供たちに語りましょう。または、子供たちの住んでいる地域について教師の知っているよさを語りましょう。



「自分の育ったふるさとが大好きだった雨紅の気持ちになりながら、『ゆうやけこやけ』の歌を歌いましょう。」

終末

○『ゆうやけこやけ』の歌を全員で一緒に歌い、雨紅の故郷への愛情を感じ取らせるとともに、自分たちの住む町のよさを思い描かせましょう。

板書例

ふるさとを歌に — 中村雨紅のものがたり —

中村雨紅の写真

p.34
ゆうやけこやけの歌詞

(いよいよ、夏休みだ)と心の中で言った時、雨紅はどのようないことを思い出していたのでしょうか。



(ああ、ほくの村はいいなあ。)と心の中で言った時、雨紅は、どのようないことを思い出していたのでしょうか。

きれいな夕やけ
だなあ。
からすも早く帰りたいよね。
空気がおいしいよ。
月がまるくてきれいだなあ。
ほしがかがやいてなんてきれいだろう。
きれいな川だ。なつかしいな。
また、ともだちとたくさんあそびたい。
お父さんお母さんに早く会いたいよ。
村の人は、みんな元気かな。

p.61
川遊びの挿絵

p.60
夕焼けをながめている挿絵

p.61
夕焼けをながめている挿絵

p.61
月の挿絵

p.61
人々の挿絵

自分が住んでいるところ、『いいなあ』『好きだなあ』と思うのは、どのようないことですか。

- 人
- ともだちがたくさんいるところ。
 - ちいきのおじさんが、たいこを教えてくださいるところ
 - つながるであうおばさんが、「いってらっしゃい」「おかえり」と、こえをかけてくれるところ。

- よさ
- ●川。ザリガニがたくさんとれるから。
 - ▲公園。ゆうぐがたくさんあるから。
 - ■しょうてん。まいとしなつまつりがあるから。

《評価》 郷土の文化や生活に親しみ、郷土を愛し大切にしているよさを心情を育むことができたか。